

【短報】長崎県のナガマルチビゴゲンゴロウの記録

ナガマルチビゲンゴロウ *Leiodytes kyushuensis* (Nakane, 1990) は、本州、九州、奄美大島に分布する小型ゲンゴロウの一種である(記野・長谷川, 2001; 森・北山, 2002)。溜池などの止水域の水際に生息し、主に枯死した植物が堆積したような浅い場所で見つかるが、枯死した植物が全くない石の間隙から見つかる例もある(森, 2013)。今回、長崎県では初記録と思われる本種を確認したので報告する。

19 exs., 長崎県長崎市相川町, 5. V. 2012, 深川採集, 森正人・深川保管, 森正人一部同定。

10 exs., 長崎県長崎市野母樺島町, 4. IV. 2013, 深川採集, 森正人・深川保管, 森正人一部同定。(図1)

5 exs., 長崎県佐世保市吉井町, 22. IX. 2013, 深川採集・同定・保管。

2 exs., 長崎県北松浦郡佐々町口石免(図2), 22. II. 2014, 深川採集, 深川保管・同定。15 exs. 同, 2. III. 2014, 深川採集, 森正人・今坂・深川保管, 森正人一部同定。

5 exs., 長崎県諫早市森山町唐比西, 16. III. 2014, 深川採集・同定・保管。

24 exs., 長崎県平戸市東中山町, 5. IV. 2014, 深川採集・同定・保管。

採集場所は、溜池や休耕田の水際に植物が枯死して堆積している場所やミゾソバが増水等により水中へ没しているようなところである。そこへ立ち入った際に、足下が10 cm程ゆっくりと沈み、



図2. 晩冬の生息地。

水が浸み出てくると、その足下の水溜まりでチビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus* (Sharp, 1873) に混ざって遊泳している姿が確認できた。採集した時期が晩冬でもあることから、生息場所もしくはその近隣で越冬している可能性がある。上述のような場所は、人為的な影響を受けやすく、小規模な工事でも容易に生息場所が消失する可能性があり、これまで確認されていなかったことを考えれば、本県では局所的に分布していると思われる。また、長崎県内には、本種に類似するホソマルチビゲンゴロウ *L. miyamotoi* (Nakane, 1990) の生息も確認されていることから(松尾・下條, 2014)、県内の両者の生息状況を早急に把握しておく必要がある。

末筆ながら、本種の同定をお願いし生態等についてもご教示いただいた森正人氏、本種の調査について多大なご助力を賜った松尾照男氏と、長崎市環境政策課の諸氏にはこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 記野直人・長谷川 洋, 2001. 日本産クロマメゲンゴロウ類の分布. 甲虫ニュース, (134): 21-25.
 松尾照男・下条清隆・西海学園高等学校科学同好会, 2014. 上五島宇久島の甲虫類採集記録. こがねむし, (79): 5-27. 長崎昆虫研究会.
 森 正人, 2013. 微小水生甲虫の生息環境について - ミジンダマガムシとナガマルチビゲンゴロウの例 -. さやばねニューシリーズ, (9): 33-36.
 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版。

(深川元太郎 859-2212 長崎市畝刈町 1613-262)
 (今坂正一 830-0037 久留米市諫訪野町 1736-3)

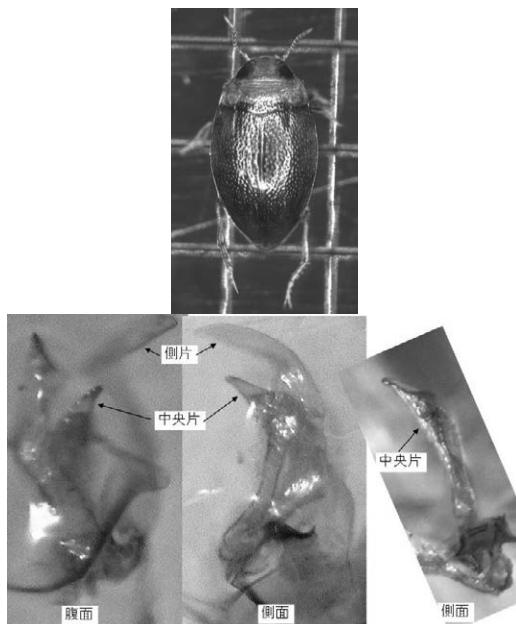


図1. 採集個体と♂交尾器。